

をつねによりよいものにしてしようとする授業研究に関心が高まり、学校をあげてこの研究に取り組まれているが、その実際においては、授業そのものの複雑な様相や限られた研究時間などのため、多くの問題点をもっている。

このようなことから、この研究では、本県小・中学校における授業研究の実態や問題点を明らかにし、授業をよりよいものにするための基礎資料を提供しようとした。

## (2) 研究の内容

本県小・中学校における授業研究の実態

## (3) 研究の概要

### ① 主な調査内容

「現職教育や教師個人の研究主題」、「授業研究の実施状況と問題点」、「授業改善のための研究・研修の方法」など。

### ② 主な問題点

「時間がとれないこと」、「研究授業の指導案の作成が難しいこと」、「授業のねらいが、どれだけ達成されたのかの判定が難しいこと」など。

## 3 福島県診断学力検査問題の研究

### (1) 研究の視点

この研究は、継続研究事業であり、教育課程の改訂にともない当教育センターの学力検査問題を全面的に改訂作成するものである。

そのために、新教育課程にふさわしい検査問題であり、また、県内各校が自校の学力の実態を把握・診断し、教育課程の編成や学習指導の改善に役立つ検査問題となるように研究を進めた。

### (2) 研究内容と方法

#### ① 福島県標準学力診断検査問題の研究

ア 国語・算数科について、所員と小学校教員からなる研究委員会を構成し、新学習指導要領に基づく小学校4・5・6学年用の検査問題を作成した。

検査時間は、国語・算数科ともに45分間であり、検査問題数は、国語50問、算数40問である。

また、学力診断の資料として、「福島県標準学力診断検査問題の手引き」を作成した。

イ 社会・理科について、所員と小学校教員からなる研究委員会を構成し、新学習指導要領に基づく小学校4・5・6学年用の検査問題を検討した。

#### ② 福島県標準学力診断検査の実施

社会・理科の検査問題の標準化のために、県内小学校15校を層化無作為2段抽出法により抽出し、検査を実施した。

## 4 教育相談の基礎的研究

### (1) 研究の視点

登校拒否の症状で来談する件数が増加している現況から、登校拒否児をどのように理解し、指導すればよいかという観点から研究を進めた。

### (2) 研究の内容

- ① 登校拒否をする子供のタイプ
- ② 登校拒否児と学業不振・不適応

- ③ 行動療法による登校拒否児の治療的指導
- ④ 高校生で登校拒否を起こした生徒の事例とその治療的指導
- ⑤ 登校拒否をする子供の母親の「エゴグラム」

### (3) 研究の概要

#### ① 登校拒否をする子供のタイプ

登校拒否の原因及び一般的な経過、学校における登校拒否の早期発見のための、長欠児童・生徒類型分類チェックリストについて解説した。

#### ② 登校拒否児と学業不振・不適応

登校拒否児の性格特性及びその母親の養育態度について調査研究をした。その結果、登校拒否に結びつくのは、学業不振・不適応という事実から起こる強い欲求不満に耐えることのできない場合であることがわかった。

#### ③ 行動療法による登校拒否児の治療的指導

中学生の登校拒否児に対して、行動療法によって系統的脱感作を行い、不安を除去し、耐性を育てて、再登校にいたるまでの治療的指導を行った事例である。

#### ④ 高校生で登校拒否を起こした生徒の事例とその治療的指導

甘やかされ型に無気力傾向が加味された登校拒否の高校生に対して、自律訓練法の簡便法とカウンセリングによって、心身のリラックスを図り、再登校にいたるまでの治療的指導を行った事例である。

#### ⑤ 登校拒否の子供の母親の「エゴグラム」

母親の自己状態を知るために、質問紙法によってエゴグラムを実施し、登校拒否児の母親の性格特性を調査研究した。その結果、感情のレベルでのコミュニケーションが取りにくく、子供をいい子に育てようという傾向が強いことがわかった。

## 第3節 教職員研修

昭和53年度は、前年度におこなった教育センター内における研修の体系化と研修内容の改善計画をうけつぎ、教育庁各課室、校長会等、関係機関との連けいのうえにたつて研修事業を計画した。

その概要は次のとおりである。

- 1 研修講座の新設、編成がえ、講座数の増減はおこなわなかった。
- 2 研修講座の人員は、高等学校国語講座10名、情報処理教育講座FORTRANC上級)5名、同OR5名の減のほかは前年度と同数の定員で計画した。
- 3 内容の充実と研修の効果を高めるようにつとめた。
  - (1) 学習指導要領の改正の趣旨や内容についての研究をとり入れるようにした。
  - (2) 研修の形態には研究協議のほか、実技、実習、観察、実験、調査、演習等を取り入れる工夫をし、研修内容の充実をはかるとともに、研修の効果が高まるように努力した。
  - (3) 小学校の教科に関する講座には、小学校の学級担任制による全領域、全教科指導の現状にもとづき、教育学